

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/05 ～2018/09/30)

1. 勉学の状況

私の所属する文献学部では9月10日にオリエンテーションがあり、この日から授業が始まりました。留学生の履修登録期間は9月24日～10月11日と長いので、私は興味のある授業に一通り出てみることにしました。色々と考えた結果、前期は Gramática para la Enseñanza del español I,II (指導のためのスペイン文法1, 2) と Seminario de Traducción Japonés-Español (日本語からスペイン語への翻訳) の3つの授業を取ろうかと考えています。文法の授業は名前順でクラスが振り分けられているため、全く同じ内容の授業が月曜日と火曜日にそれぞれ開講されています。今の私の語学力では、先生が何について話しているのかよくわかるときもあれば、全然わからないときもあり、理解度は内容によってかなりばらつきがあります。そのため、文法の授業は月曜日と火曜日どちらも行くことにしました。やはり一度聞いただけではわからなかったことが二回目でわかることが多々あるので、しばらくはこのスタイルで授業に参加しようと思います。

翻訳の授業では大学院の推薦状を教授に依頼するメールや日光東照宮の紹介文など、実践的なテキストを扱っているので大変興味深いです。また、授業は事前に生徒が提出した文をいくつか紹介しながら、皆で意見を出し合って推敲していくスタイルなのですが、私はまだまだ発言することが出来ません。早くこの話し合いに参加できるように頑張りたいと思いました。

上記の文献学部の授業の他に、翻訳学部の日本語の授業にボランティアとして時々参加させて頂くことにしました。このクラスは第二外国語として日本語を勉強している二年生のクラスです。日頃自分が履修している授業ではスペイン人の友達に助けられてばかりなので、このクラスでは少しでも彼らの役に立てればと思っています。

2. 生活の状況

私は昨年度サラマンカ大学に留学していた先輩の紹介で、その方が住んでいたピソという共同アパートにモロッコ人と中国人の女の子と3人で住んでいます。大学やこれから通おうと思っている語学学校から近く、また比較的大きなスーパーにも近いので、とても生活しやすいです。おそらく6月まで同じメンバーで過ごすと思うので、良い関係を築いていきたいです。

今月は色々買い出しに行くことが多かったです。大方のものはすぐに見つかったのですが、基礎化粧品を探すのには苦労しています。こちらの洗顔は、化粧落とし用の乳液で化粧を浮かし、拭き取り化粧水でふき取った後にクリームをつけるのが主流のため、日本でいう洗顔フォームや化粧水はスーパーにはあまり置いていません。私はそのことを知らなかったので、間違えて拭き取り化粧水や化粧落としのクリームを何本も買ってしまいました。そのうえ、まだ探し出せてい

ません。最近ピソの子に何を使っているのか、どこで買ったのか教えてもらったので、来週買いに行きたいと思います。

毎週木曜日にはスペイン人と日本人の交流会があり、日本語学習者のスペイン人を中心に知り合いも徐々に増えていっています。ただ、その交流会はとても大規模で、大人数での会話に参加することが苦手なことと、まだうまく話せないことも相まって、私はあまり発言できないことが多いです。そのため、一対一や少人数でインテルカンビオをしてくれる人を探したいなと思っています。自分から行動を起こさなければ現状は何も変わらないと思うので、出来ることから少しずつ、積極的に行動していきたいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/10/01 ～2018/10/31)

1. 勉学の状況

先月考えていた通り Gramática para la Enseñanza del español I, II (指導のためのスペイン文法1, 2) と Seminario de Traducción Japonés-Español (日本語からスペイン語への翻訳) の3つの授業を前期は履修することに決め、9日に無事履修登録を済ませることができました。今のところ文法IIの授業が一番理解しやすいです。直説法と接続法の違いや過去形の使い分けなど、日本で学習していたことと内容が似ているため、良い復習になっています。文法Iは扱っている内容自体は文法IIの授業と似ていて理解できるのですが、授業中いま何のためにこの話をしているのか、何の目的のための例示なのかわからないことが多々ありました。テストまでにしっかり内容を整理しつつ、目的も含めて理解できるようにしたいです。翻訳の授業は大変興味深いです。例えば、「日本では道を歩いていても多くの自動販売機を目にする」という文の「道を歩いていても」をそのまま訳すのではなく、「探さなくても」と訳す方法があると聞いたときはなるほど、と感心しました。予習・復習が一番大変な授業ですが、その分とてもやりがいを感じています。

今月から大学の授業に加えて、語学学校と文献学部の院生によるスペイン語の授業に参加し始めました。語学学校は週によっては金曜日もあります。基本月曜日から木曜日まで1日2時間です。火曜日は大学の授業があるため、私は月、水、木の3日間だけ語学学校に通っています。はじめは先生の話すスピードが速いために指示や説明を理解できないことが多く、また授業で扱うリスニング教材も聞き取れなかったためにレベルを下げようか悩んでいました。しかし、友人のアドバイスを受け、レベルを下げずに出席を続けたおかげで、今は以前よりも聞き取れる回数が増えてきて、苦痛を感じることは少なくなってきました。クラスメイトはブラジルからの留学生が一番多く、他にはイタリア人や中国人の人たちなど、国籍は様々です。彼らはリスニングやスピーキングに強く、逆に私たち日本人は文法に強い、という印象を受けました。

院生による授業は無料で開講されており、週に2日、各2時間参加しています。はじめにクラス分けの簡単なテストがあったのですが、思っていたレベルよりも高いクラスに振り分けられてしまい、授業中に発言するのが難しいと感じたため、先生に相談してこちらはひとつレベルを落としてもらいました。授業は月末から始まったばかりで、まだこの選択が正しかったのかわかりませんが、いずれにせよ積極的に発言することで語学力の向上を図りたいです。

2. 生活の状況

今月は先月までの暑さと打って変わって日中も冷え込むようになり、天気の良い日も多くなりました。また、空気は相変わらず乾燥しており、そのためか体調の優れない日が続きました。

実は2週間ほど前に寝起きに喉を傷めて以来、扁桃腺が腫れ、物を飲み込む際少し耳痛がしていたのですが、ここ数日は痛みがひどく、食事をとるのが難しくなったため、まさに今日病院に行ってきました。私が加入している保険会社はサラマンカに提携病院が無いので、治療費をいったん立て替える必要があり、病院に行く前はすごく不安でした。しかし、幸い思っていたよりも安く済み、また、ただの風邪との診断で安心しました。病院へは友人が付き添ってくれ、手続きも手伝ってくれたのでとても助かりました。彼女には感謝してもしきれません。体調を崩してしまっただけでは何もできないので、水分をこまめにとったり、風の引き始めにきちんと薬を服用したりするなど、体調管理にもっと気を配ろうと痛感しました。

今月は一緒に住んでいるモロッコ人のお母さんがスペインに来ていて、手料理を何度か振る舞ってくれました。私は料理が苦手な自炊は決まったメニューに偏りがちだったので、バリエーションに富んだ手料理の数々はどれもおいしく、心も満たされました。また、これをきっかけに居間で一緒に食事をする機会もあり、先月よりも話す機会が少し増え、嬉しく思いました。

留学してから2か月が経ちますが、まだまだ自分の目標には近づけていません。日によって良く聞き取れたり、喋れたりする日と、そうではない日があり、喜んだり落ち込んだりを繰り返す日々でした。しかし、最近はやりたいことに落ち込むよりも、出来るようになるために何をしようか、と考えるようになり、そう考えることで勉強や人との付き合いに前よりも前向きな気持ちで取り組めるようになりました。とにかくあまり先のことを不安に思うのではなく、いまやるべきこと、出来ることにしっかりと取り組みたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/01 ～2018/11/30)

1. 勉学の状況

学期の終わりに近づいているからか、始めの頃に比べて授業内容は難しくなっているように感じます。特に翻訳の授業で扱うテキストは以前に比べて内容、量ともにレベルが上がり、毎回提出日の前の日には頭を悩ませていました。今月取り組んだテキストのなかでは、日西文化センターで行われた岐阜県副知事のスピーチを翻訳するのが一番難しかったです。「清流の国・岐阜」といった独特の言葉や、地歌舞伎についての説明などをどうしたら自然なスペイン語で表現できるか考えるのに苦戦しました。また、この授業では地名・施設名の訳し方や会話文の表記の仕方、翻訳の際に利用すると良いサイトやツールについても言及しながら授業を進めていくので、毎回新たな気づきがあり、とてもためになっています。

こちらでは1月に学期末の試験を行うのが普通なのですが、私が他に履修している文法の授業2つはクリスマス休暇前にテストを行います。このテストはノートや授業で配布されたプリント類の持ち込みが出来るので、今月下旬から少しずつノート整理を始めました。しかし、思っていたよりも復習を進められなかったので、残り2週間でしっかりと準備をし、テスト直前になって焦らないようにしたいと思います。

語学学校や院生による授業では、文化や暮らし、政治や環境問題といった身近な話題についてスペインとそれぞれの出身国ではどのような違いがあるかを話す機会がたくさんあります。しかし、いざ話すとなると自分が日本の状況や歴史についてきちんとした知識がなく、またその状況に対する自分の考えを持っていないと感ずることが多々ありました。日本で学習していた頃は漠然と「話せるようになりたい」と思っていたのですが、それ以前に「何を話したいのか、どのような考えを持っているのか」について自分自身がもっと考える必要があると感じました。

2. 生活の状況

先月に続き今月も月末に喉を痛めてしまい、数日間耳痛に悩まされていました。日本にいるときは病気とは無縁の生活を送っていたので、体調を崩すことの辛さをスペインに来て実感しています。少し癖になっている気がするのですが、おそらくこれから何度も同じ症状に悩まされると思いますが、上手く付き合っていきたいと思います。

今月は翻訳学部でそれぞれが学習している外国語圏の文学作品を音読しあう会があり、私がボランティアで参加している授業の生徒が『竹取物語』を読むことになったので、当日私もお手伝いとして参加しました。前日の練習ではつかえてしまう場面が多かったのですが、本番ではみんなスラスラと音読していて、彼女たちの本番に向けて努力する姿勢にとっても感心しました。生徒だけでなく、先生や卒業生なども参加していて、生徒の音読とはまた違ったユーモア溢れるもの

や、役に成りきった音読は魅力的でした。後日、その翻訳の授業の先生が私ともう一人のボランティアの子を食事に誘って下さいました。日本語教師になった経緯や学生時代にしていたこと、また行きつけの美容室等を教えて下さり、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

先月までは知り合いを増やそう、新しい場所に参加してみようと思って外に出かけることが多かったのですが、今月は家でゆっくり過ごしたり、一人で買い物に出かけたり、友達に会うにしても特定の人と会うこと多かったように思います。着いたばかりの頃は、せっかく留学しているのだからなるべく家にいないで友達と会ったり、旅行に行ったりしようと考えることが多かったのですが、もともと一人で家にいて過ごすことが好きで、自分の時間を持つことがストレス発散になる私にとっては、その考えだけでは息苦しくなってしまうなと気づきました。もちろん、友達と過ごす時間や新しい人たちとの出会いも私にとって大切なので、適度なバランスを取りながら過ごしていきたいなと思いました。

来月はテストが2つあり、また3年次論文の提出も迫っていて精神的に余裕の無い日が増えると思いますが、上手くりフレッシュをしながら、着実に取り組んでいきたいと思っています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/12/01 ～2018/12/31)

1. 勉学の状況

今月は Gramática para la enseñanza I, II (指導のためのスペイン文法) の試験がありました。どちらも記述式のテストで、I では出題された長文のなかで下線が引かれているところの誤りを正したうえで文法的説明を行い、II では誤りはなく、下線部の文法的説明をする、というものでした。この授業は多くの留学生が履修していることもあってか、テストへは電子辞書、ノート、授業プリント、パソコン等全て持ち込み可でした。またテスト一週間前には練習問題が配られ、教授が必ず説明しなければならないこと、加えて説明すると得点上がることを教えてくれたため対策しやすかったです。授業中教授がメモを取るよう指示することが多々あるのですが、私は毎回いくつかの単語を聞き取りそびれていたため、12月に入ってから友達の手帳を見せてもらったり、録音を聞いたりしながらノート整理や復習をはじめました。また、テスト前には同じ授業を履修している友達や、過去に同じ授業を履修していた友達と勉強をして試験に備えました。当日は初めてのテストということもあって緊張しましたが、試験時間2時間を一杯使って解きました。テストは終わってしまいましたが、この授業のテキストは文法の復習をするうえでとても役に立ったので、自分でもう一度見直したり、授業で扱わなかったページにも目を通したりしたいと思います。

翻訳の授業も今月で終了し、残すは来月のテストのみです。全部で10個のテキストを扱ったのですが、この授業を通して自分のスペイン語表現の幅が広がったと思います。テストは15日なので、それまでに復習を進めたいと思います。

2. 生活の状況

12月に入ってから通りのイルミネーションが点灯しはじめ、またクリスマス前には広場に大きなプレゼントのイルミネーションも設置され、町全体がクリスマスムードになりました。サラマンカの冬はとても寒いですが、私はイルミネーションを見るのも冬の寒さも好きなので、今月は大学や買い物のために町を歩くだけでも素敵な気持ちになれました。

クリスマス当日は大学で日本語を教えている先生がご自宅に招待して下さいだったので、その方のお家でご家族の方たちと一緒に過ごしました。とても広くて素敵なお家で、お昼には暖炉で調理したパエリアを振る舞ってくれました。スペイン人の旦那さんもとても優しい方で、突然の訪問にもかかわらず快く迎えて下さりました。お昼の後は娘さんと、そのお友達と一緒にゲームをして過ごしました。

年末年始には、去年サラマンカ大学に留学されていた先輩が遊びに来ており、おすすめの場所やお店などを紹介して下さいました。ケバブをテイクアウトして、川の近くでピクニックをした

日は、改めてサラマンカという都市の美しさに惚れ惚れすると同時に、まだまだ知らない場所がたくさんあるということに気づきました。今はまだ寒く長い時間外にいるのは辛いので、もう少し暖かくなったら散歩がてらサラマンカの色々な場所を訪れてみたいと思いました。大晦日の日は先輩が友達とのパーティーに誘ってくださったので、その友達の家で過ごしました。みんなで料理や飲み物を持ち寄り、本当におなか一杯になるほどたくさんの料理を食べました。年越しの時には、スペインの風習に従って鐘に合わせて12粒のぶどうを食べました。意外と難しく、私は成功しませんでした。

勉強を手伝ってくれたり、遊びに誘って下さったり、周りの方たちへの感謝を強く感じる一か月でした。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/1/01 ～2019/1/31)

1. 勉学の状況

今月はテスト期間だったため、授業はありませんでした。私は履修している3つの授業のうち2つを先月に終えていたので、今月は翻訳のテストのみでした。テストは大問三つに分かれており、それぞれ170字程度の日本語をスペイン語に訳すものでした。試験にはノートや辞書等全て持ち込み可で、ネットを使って調べることも出来ました。そのため、今まで毎週家で行っていた課題の形式がそのままテストになった感覚でした。授業で扱ったテキストでは、実際に存在する人物や建物の名前が出てくるので、ネットを使って正しいスペルを調べたり、実際の建物や観光地の写真を見てどの単語を用いて説明するべきか考えたりする必要がありましたが、テストではそのような文が出てこなかったため、調べる作業に時間を取られずに済みました。また、文も今までのテキストと言い回しや表現が似ている箇所がいくつかあったため、比較的スムーズに翻訳することが出来ました。ただ、定冠詞の使い分けや有無、単数形を用いるのか複数形なのか等の細かい点において自信がなかったため、合格最低点を取れているか不安でした。結果的には、無事合格出来ていたのととても安心すると同時に、日ごろ助けてくれた友人たちへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また、今月は千葉大学の3年次論文の締め切りでもあったため、年が明けてからは目星を付けていた本や記事を、本腰を入れて読み始めました。読み進めていくと、さらに関連する記事や書籍が新たに出てきたので、ネットで調べたり、図書館や古本屋に探しに行ったりする日々でした。私は電子書籍よりも紙媒体が好きなので、必要な本をどうにか紙媒体で手に入れたかったですか、あいにく私が回った図書館や古本屋にはどこにも置いていなかったため、しぶしぶネットで電子書籍を購入しました。また、サラマンカで研究活動をしている日本人の方が、私の研究テーマに関する日本語で書かれて本を数冊貸して下さったので非常に助かりました。3年次論文は無事終わりましたが、卒業論文に向けて、日本に帰るまでにさらに文献を集めたいと思います。

2. 生活の状況

今まではスパゲッティや冷凍パエリアなど、一品でお腹が一杯になる食事を取ることが多かったのですが、そういった偏った食事の反動からか、今月は野菜や果物が食べたくなり、野菜スープや果物を入れたヨーグルトを食べるようになりました。実際に頻繁に野菜や果物を買うようになってから、価格の低さに改めて驚いています。また、最近野菜や果物の品ぞろえが良いお店を見つけたので、少し遠いですが今までとは別のスーパーやお店にも足を運ぶようになりました。私が今まで買い物をしていたスーパーには白菜が売っていなかったため、別の店で白菜を見つけ、帰って鍋をした日はとても感動しました。スペインに来てから最も健康的な食事を摂った1か月

でした。

先ほど書いた、研究活動をされている方が今月日本に帰るということで、電子レンジでお米が炊ける容器や、調味料、カレー粉などを譲ってくれました。日本の調味料は中国人が経営しているお店で手に入るのですが、少し値が張るので助かりました。また、鍋でお米を炊くのは面倒だと感じていたので、これもとても役立っています。

千葉大学からサラマンカ大学へ留学しているもう一人の学生も、留学期間が半年なので2月の頭に帰国してしまいます。留学へ応募するときから色々と一緒に準備を進めていたので、帰ってしまうのを寂しく思うと同時に、自分もあと5ヶ月という残された時間を有意義に過ごしていきたいと思いました。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/2/01 ～2019/2/28)

1. 勉学の状況

今月から後期が始まり、私はスペイン語の意味論・語用論の授業、アジア社会についての授業、そして近東の考え方や価値観について学ぶ授業を履修することにしました。今期は前期以上にどの授業を履修するか悩み、はじめの2週間は色々な授業に出席していたので少し疲れましたが、履修登録を無事済ませることが出来て今はほっとしています。

意味論・語用論の授業では類義語のニュアンス、使い方の違いや文脈に合わせた意味の捉え方などについて学ぶことが出来、大変興味深いです。しかし成績は100%テストで、さらに授業では取り上げない3つの資料についても出題されるため、既にテストに対して不安しかありませんが、頑張っついていきたいと思います。アジア社会の授業では、今月既にグループワークでの課題提出がありました。課題はアジア圏に対してどのようなステレオタイプが存在するか描写し、それについて意見を述べる、というものでした。隣に座っていた男の子たちがグループに誘ってくれ、私が日本人ということもあり、私たちはスペインの旅行会社のホームページに掲載されている写真から、日本、特に東京に対してどのようなイメージが浸透しているのかについてレポートを書きました。グループワークを通じて、私の卒論に関連するような課題以外のテーマについても色々話しをすることが出来て勉強になりました。近東についての授業が今のところ一番苦戦しています。基礎知識がほとんど無いうえに、授業では専門用語が多いので、予習・復習に毎回手を焼いています。後期の授業は前期に比べて難しく、予習復習がどれも大変な授業ばかりですが、先生や友達の助けを借りながら頑張りたいと思います。

また、2月から別の語学学校に通い始めました。というのも、前期、大学のテスト期間を機に語学学校へはほとんど行かなくなってしまっていたので、後期は大学の授業と院生によるスペイン語クラスだけにするつもりでした。しかし、あとから今学期は院生によるスペイン語の授業が開講されないことを知り、その時既に手続きの締め切りを過ぎていたので、いつでも入れる別の語学学校に通うことにしました。今の語学学校は前期のよりも小規模ですが、先生も事務の方もとても優しく、気さくに話しかけてくれるので毎日楽しく通っています。

2. 生活の状況

クリスマス休暇からずっと授業が無かったため、ここ1か月ほど不規則な生活が続いていましたが、学校が始まって毎日午前中から授業を受けるようになると、規則正しい生活を送るようになりました。また、課題や予習・復習に費やす時間が前期に比べて圧倒的に増えました。そのため、朝や放課後図書館に寄ることが多くなりました。本当は、私は自分の部屋で勉強するのが好きなのですが、私の部屋の照明や電気スタンドは勉強するには少し暗いので図書館に通うように

なりました。

学校が始まったことで友達に会う機会も増え、週末は友達と食事をしたり、バルに飲みに行ったりして過ごしました。新しく始まった授業や、毎週木曜日に行われている日本人とスペイン人の交流会に今月からまた顔を出すようになったことで、新しい知り合いも増えました。バレンタインデーの日は、友達の家を集まってクッキーを作り、皆に配りました。スペインではチョコを贈る習慣は無いそうですが、日本語を勉強している友達の間では日本の習慣が知られており、ホワイトデーにお返しをくれるそうなので楽しみです。月末から始まったカーニバル週間では、初めて仮装をして出かけました。

毎日やらなければならないことがたくさんありますが、着いたばかりの頃のような焦りや息苦しさはあまりなく、やりたいことが出来ている、という充実感の方が大きいです。きっとようやく本当の意味でサラマンカでの生活に慣れてきたのだと思います。勉強に遊びに、あっという間の1か月でした。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/3/01 ～2019/3/31)

1. 勉学の状況

この1か月でどの授業も内容がかなり進み、正直予習・復習が追い付いていません。特に意味論・語用論の授業は週3回あるため、復習に手間取っています。しかし、内容は今期の授業のなかで一番興味深く、また、生徒と先生間のやり取りも活発なので、毎回楽しく授業に出席しています。ただ、やはりスペイン語を母国語としていることを大前提で授業が進むので、類義語の微妙なニュアンスや、複数意味を持つことを利用した冗談の例などは、その場では理解できないことが多々あります。これらの例も含めて授業の内容を理解できるように、しっかり復習を進めたいと思います。近東についての授業は相変わらず苦戦しています。先日はギルガメシュ叙事詩を題材に、複数の翻訳バージョンを比較しながら、それぞれのフレーズが何を意味しているのか、またこの動詞を用いることでどのようなことを表現しようとしているのか、等について議論しました。私はその場で文を読むだけでも精一杯で、細かい表現の違いにまでは頭が回りませんでした。が、クラスメイトの解釈を聞くだけでもとても参考になりました。また、この授業では外部講師による講演が数回予定されています。今週行われた1回目の講演は「聖書とユーモア」というタイトルが掲げられており、講演の最後には、グループごとに聖書に関するテキストを読み、それにユーモアを加えて短い劇を披露しました。授業の内容は毎回難しいですが、グループワークやアクティビティが多く、とても刺激的な授業です。

2. 生活の状況

今月の半ばから1週間ほど日西文化センターで「日本文化週間」が開催されており、私は押し絵体験教室に2日間ほどボランティアとして参加しました。当日スムーズに教えられるように、私たちも実際に押し絵を体験させて頂きました。押し絵は、パーツごとに細かく切り分けた厚紙を布地でくるみ、それらを図柄に合わせて再び組み合わせることで出来上がります。緻密な作業を丁寧に繰り返すことで綺麗な押し絵が出来上がるのですが、私は手先が不器用なのでコツを掴むまでに時間がかかりました。完成したときは出来上がった嬉しさと同時に、自分も知らなかった日本文化を体験できた嬉しさを感じました。当日は、日本語を勉強している方はあまりおらず、その代わりに、日本語は知らないけれど、日本文化に興味を持っているスペインの方々が多く参加していました。はじめはスペイン語で上手く説明できるか不安でしたが、皆さん優しい方ばかりで、楽しく参加することが出来ました。

今月は、「興味を持つ」ことで広がる可能性を改めて感じた月でした。今回の押し絵体験だけでなく、普段の会話のなかでもスペインの政治や文化、それと比較して日本はどうか、興味を持ってばそれについて知ろうと情報を集め、それがきっかけで会話が弾んだり、交友関係が広がっ

たりと、色々なことに繋がっていきます。常に色々な事を知り、学ぼうとする姿勢を大事にして
いきたいと思いました。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/4/01 ～ 2019/4/30)

1. 勉学の状況

意味論・語用論の授業では比較対象として他の言語の例を挙げることがしばしばあるのですが、敬語の度合いが言い回しによって細かく分かれる例として日本語が取り上げられた際に、皆の前で日本語の敬語について少し説明しました。スペインの授業では生徒の発言数が多いので、生徒同士授業中に話し合うことには慣れましたが、いまだにクラス全体で発言するとなるとやはり緊張します。無事説明することが出来、質問にも答えられたのでほっとしました。

アジア社会についての授業は、今月でちょうど日本以外の国について終えたところです。先日の授業で先生が「東洋の国々についての説明や定義はほとんどが西洋の視点から為されたものであり、本当の意味で東洋の国々について知ったり、考えたりするには出来る限りこの枠組みから抜け出し、東洋の考え方を自分の中に取り込んでから考える必要がある」と仰っていたのが印象的でした。なぜ印象的だったかとういうと、留学してから「翻訳」の難しさと、何かを調べたり研究したりする際に原文にあたることの重要性を感じる機会が増えたからです。ある語では1つの単語として存在するのに、他の言語に翻訳しようとするとき長い説明が必要になる、またはぴったり同じニュアンスの単語が無い、というのはよくある翻訳の問題だと思います。これが簡単な言葉や文章の範囲であればあまり大きな齟齬は生まれなくてもいいかもしれませんが、文化や慣習、あるいは物事の考え方についての説明を翻訳するとなると、大抵他の言語には存在しないその国独自の単語を翻訳する必要性があり、もしこれを翻訳する言語に近い概念や単語に置き換えて翻訳したとすると、それは100%原文と同じとは言えないように思います。そのため、元の言語の文脈や使われ方も含めて知ることができる原文をあたることはとても重要なことだと思えるようになりました。また、もしその言語を知らないとしても、自分の国に存在しない文化や物事の捉え方について考えたり、理解したりするためには、母語による世界の分節の仕方にだけとらわれていては難しいように思います。これは言語や他の国について知るときだけでなく、日々の生活の中で自分以外の人と関わる時にも通ずる考え方だなと感じました。

2. 生活の状況

今月は聖週間のため12日～23日にかけて大学の授業は無く、大半の学生は故郷に帰ったり、旅行に出かけたりしていました。また、29日は「水の月曜日」というサラマンカ固有の祝日で、お昼を過ぎるとほとんどのお店が閉まり、多くの人が川の近くに集まってこの日を祝います。私も友人たちと一緒に川辺に行き、この日によく食べられるオルナソというチョリソーが挟まったパンや、その他皆で持ち寄った料理やお菓子を食べて過ごしました。月初めは冬が戻ってきたかのように寒い日が続いたり、雨が降ったりしていましたが、後半は気温が上がり、天気の良い日も多くなったため、絶好のピクニック日和になりました。月末には一昨年留学されていた先輩が

サラマンカに遊びに来ており、久しぶりにお会いすることが出来てとても嬉しかったです。2年生だった当時、留学を終えて帰ってきた先輩がスペイン語を流暢に話し、また自分がやってきたことに自信を持って、いきいきとしている姿にとても感銘を受けました。そして、卒業するとき胸を張って大学生活4年間を通して学んだことを語れる自分でありたいと思い、そこからより力をいれてスペイン語に取り組むようになりました。今回憧れの先輩とスペインで会えたことは感慨深く、また同時に先輩の使う単語や言い回しを間近で聞いて、私もまだまだ頑張ろうと思いました。

最近は今までの留学生生活を振り返ったり、残りの2か月、また帰国してからどう過ごしたいかについて考える時間が増えました。先のことを思うと不安になったり、寂しく感じたりすることもあります。まずは目の前に迫っているテストにしっかり取り組みたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/5/01 ～2019/05/31)

1. 勉学の状況

授業は2週目までで終了し、月末からテスト週間に入りました。履修している3つの授業のうち、意味論・統語論のテストが30日にあったのですが、正直あまり手応えがありません。テストは授業で取り扱った内容についての選択問題、提示されたテーマの説明、そしてその他に配られた3つの資料に関する記述問題の3つから構成されていました。選択問題はほぼ自信をもって答えられたのですが、記述問題にはかなり不安が残ります。というのも、テスト対策の際にインプットすることに大幅に時間を費やし、アウトプットまで手が回らなかったために、書かれていれば理解できるけれど、自分で一から説明するには力不足の状態でした。インプットする際、簡単な文章ならスペイン語のまま理解できますが、複雑な文章や、ある概念についての長い文章に取り組むとなると、1度日本語で理解する工程を挟まないとすぐに忘れてしまいます。コミュニケーションを取るレベルとしての語学力と、ものごとを思考するための語学力の違いについてテスト勉強を通して実感しました。おそらく、追試を受けることになると思うので、次回は記述対策に力を入れたいと思います。

近東についての授業は試験が無い代わりに、4つのレポートとその他1つの課題、そしてグループで行ったプレゼンによって評価されます。私は前期でレポート課題が無かったので、今期初めて取り組みました。現在3つのレポートと課題1つを終えた状態です。1つ目は中国における宇宙創造論について、2つ目は創世記とバビロニア神話、エヌマエリシュの比較、そして3つ目は古代オリエント史をモチーフにした漫画についての考察です。レポートを書くにあたって指定された資料を複数読まなければならないため簡単ではありませんが、スペイン語で文章を書くことへの抵抗感はほとんど無くなり、書き上げた際にここまでスペイン語で書けるようになったんだと自信を持つことができました。残り1つのレポートが一番大変そうですが、頑張りたいと思います。

2. 生活の状況

月の初めはまだ週末に友達に会ったり、買い物に出かけたりしていたのですが、テスト週間に入ってからほぼ毎日テスト対策や課題に追われて過ごしていました。この時期はどこの図書館も混んでいるので、私は家で勉強することのほうが多かったです。勉強の息抜きとしては、最近お気に入りのスペイン人歌手の歌をよく聴いていました。私は普段邦楽しか聴かず、他のジャンルの曲はほとんど興味が無かったのですが、たまたま友達のお母さんが教えてくれた曲がとても素敵で、それからはその歌手の曲を探して聴くようになりました。スローテンポな曲が多く、歌詞も聞き取りやすいので、とても気に入っています。

留学生活も残り 1 ヶ月となり、改めて月日が経つのは早いと感じています。そして、その 1 ヶ月もあっという間に終わってしまうんだらうなと思うと寂しく思いますが、今やらなければいけないこと、できること、そしてやりたいことを考えながら残りの時間を大切に過ごしたいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/6/01 ～2019/6/30)

1. 勉学の状況

今月は月初めにアジア社会についての授業のテストがありました。友達に頼んでノートを見せてもらったり、録音を聞き返して復習したりしたおかげで、本番の選択式のテストではほぼ自信を持って答えることができました。

前回手応えを感じなかった統語論・意味論のテストは案の定落ちており、1回目のテスト期間が終了してからも月末の追試に向けて勉強を続ける日々でした。今回は前回の反省を生かし、アウトプットに重点を置いて対策をしました。また、資料問題の対策として自分でレジユメを作り、これも一から説明できるよう入念に確認しました。努力した甲斐あってか、無事追試には合格することが出来、ホッとしています。

近東についての授業ではレポートが1つ残っていたのですが、このレポートを書き上げるのが一番大変でした。これは成績を上げるためのレポートなので、今までのものよりは難しくなる代わりに、生徒は取り組むか取り組まないか自由に選択することが出来ました。私は単位が取れるか心配だったのと、提出期限が追試の日までと、比較的時間があつたため、取り組むことにしました。このレポートでは「大洪水」について考察するために指定された神話を4つ、またそれに関する研究論文を6つ読まなくてはなりません。資料を読むのに膨大な時間がかかり、途中で何度もやめようかと諦めかけましたが、なんとか期限までにレポートを完成させることが出来ました。

2. 生活の状況

この10か月を振り返ってみると、とにかく色々なことへの興味・関心が生まれた留學生活でした。授業はもちろん、普段の生活を通して小さなことから大きなことまで、「これって何だろう、調べてみよう」と思う機会が増えたように思います。今までは日本の中から日本を見ていたものが、一度その枠組みから外れて俯瞰的に日本を捉えることで、それまで当たり前だと思っで見過ごしていたことに目を向けるようになったからだと思います。また、留學を通して自分で考えて意見を持つことの大切さを痛感しました。私はこれまで勉強をするうえで正解にたどり着くことを求めています。絶対的な正解が存在する研究なんてものは無く、常に自分はどうか考えるかが求められているのだと気づきました。そして、ものごとを考える基盤として知識や資料が必要であり、その知識、資料をより多く、正確に収集するためには、(特に私の興味・関心のある分野を学ぶには)外国語の習得が必須であると感じました。外国語の習得は研究面に限らず、とても大きな可能性を人生に与えてくれると思います。日常生活のなかでも、もしその言語を学んでいなかったら繋がることの出来なかった多くの人たちとの出会いや、言葉が通じることの喜びなど、様々なことを体験させてくれました。アジア社会授業の先生が仰っていた「同じ目線、

立場に立って考える姿勢」と、先ほど述べた「俯瞰的に社会や物事を捉えて考える姿勢」の両方を併せもちながら、知識や情報をもとに自分で考え、意見を持つことの出来る人間になれるように、日本に帰ってからも学習を続けたいと思います。留学を支援してくださった方々、留学中に一緒に時間を過ごしてくれた友達、そして見守ってくれた家族や先生、全ての方々に感謝します。ありがとうございました。